

# すばしり



平成28年度 小山町立須走中学校 学校だより

平成28年11月22日発行 第11号

## 学校教育目標

「感性豊かに 学び合い 認め合い  
ともに高め合う生徒」

- ・知を高める
- ・身体を高める
- ・心を高める

## 須走中学校生徒の 全国学力学習状況調査における実態と分析

3年生を対象として行われた全国学力・学習状況調査（国語、数学、生活総合）について、小山町の分析結果が出されました。須走中学校の生徒の実態と今後の課題について分析をしましたので、掲載をさせていただきます。

### 国語について

#### 1 分析による成果・課題

##### ◎国語A問題について

- ・すべての観点において、ほぼ全国・県と同レベルの結果だった。
- ・無回答数が少なく、すべての問題に答えようという意欲が見られる。
- ・ポイントを押さえて文章の主旨や内容を理解する読み取りを、日頃の授業で徹底しているため、「読む力」（特に「文章の展開に即して内容を捉える力」「登場人物の言動から内容を理解する力」）は確実に付いてきている。
- ・小学校での既習漢字が定着していない。
- ・段落と段落のつながり、文章の構成を正しく捉える力が不足している。

##### ◎国語B問題について

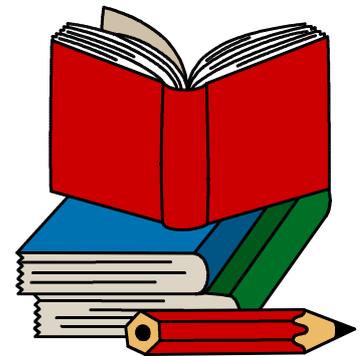
- ・文章の中心になる部分と付加的な部分の読み分け、主旨を正確に捉える力は付いてきている。
- ・根拠を明確に自分の考えをまとめる力が足りない。
- ・自分の考えをまとめて文章で記述することに課題がある。

#### 2 課題に対しての具体的な方策・取り組み

- ・漢字書き取り（毎日の宿題）を継続する。
- ・読書活動を充実させる。
- ・新聞記事などを使い、書かれている内容を的確に把握し、自分の考えをまとめる練習を繰り返して行く。

#### 3 具体的な取り組みに対する評価の計画

- ・授業前の小テストでどの程度力がついているかを検証する。
- ・全体指導で成果が上がらない生徒については、個別の課題を用意したり、個別支援の場を設けて、力の定着を検証し次の手立てを考える。



### 算数・数学について

#### 1 分析による成果・課題

##### ◎数学A問題について

- ・全体的な無回答数は県、市町に比べて低く、問題を解決しようとする意欲が高いことが分かる。しかし関数分野での無回答数や、正答数が非常に低く、苦手意識が強い傾向にあり今後の学習の定着が課題であることが分かる。特に、反比例のグラフから式を求める問題や、1次関数のグラフから  $x$  や  $y$  の変域を求めたり、1次関数の事象を式で表したりする問題の解決が苦手である。



- ・考察を述べた文章から正しい記述を選ぶ図形の論証問題は最も正答率が低かった。
- ・単純な計算や、方程式を解くなどの技能面を問う問題の正答率が高いものの、情報を分析して考察する問題に対する正答率を上げていくことが課題である。
- ・小学校で学習した分数と小数の乗法の誤答が多く、小学校時代の計算練習も課題である。

### ◎数学B問題について

- ・A問題に比べると、遥かに無回答数が多くなってしまっている。特に三角形の合同を利用して証明する問題や、与えられた条件によってどのような三角形になるのか説明する問題では、県や市町の無回答数を大幅に上回る結果となった。
- ・図形の基本的な性質や定理を知っているだけで、どのように導き出されたのか理解していないと正解にたどり着かない。このため、論証や説明に手が付かない生徒が多く出てきたと考えられる。ここでは図形の基本的な性質や定理がきちんと既習事項を押さえて説明できるようにすることが課題である。
- ・1年生の時に学習する相対度数に関する問題の無回答の多さが目立った。1年生の時に学習した内容の定着が為されておらず、手がつかなかった生徒が多くいたようである。既習事項について、反復学習を行うことが課題として挙げられる。

## 2 課題に対しての具体的な方策・取り組み

- ・基本的な計算問題や方程式を解く技能については、引き続き繰り返し練習をし、他の問題の解決に役立てるように指導する。
- ・A問題での課題として挙げた分数と小数の計算については、中学校での数学学習の理解を左右するので、学習支援員と連携し個別支援を充実させ基礎計算力の定着を図る。
- ・今回の調査を受けて、関数関係や図形の特徴について説明することや、図形の基本的な性質や定理を用いて合同の証明をすることが苦手であることが浮き彫りになった。小グループを効果的に活用し、友達同士の対話的、実践的な学習を取り入れ、子どもたちが自分たちで学びを深める授業の構築を目指す。
- ・今回の無回答数から、数学に対する苦手意識が自分から進んで問題を解決し、根拠を持って事象について説明や論証をしようという学習意欲を低下させていることが分かる。授業では子どもに「できた」、「わかった」という学びの実感を味わわせることがいかに大事であるかがわかる。学びの実感を得られる教材の工夫や授業の進め方について研究し、子どもが主体的、対話的な深い学びとなるように実践する。

## 3 具体的な取り組みに対する評価の計画

- ・毎授業前に、基礎計算力を図るための小テストを実施し、生徒個々の計算力を評価し結果を支援員と共有して、個別支援に役立てる。
- ・基礎計算力以外に、既習事項についての問題を取り入れ学習の定着の度合いを評価し、再指導が必要なものを授業で取り扱い、定着を図る。
- ・小グループを活用する場合には、本時の学習課題を1つに絞り、子どもが課題に集中して取り組める環境を構築し、授業後に「何がどのように分かったのか」、「分かったことをどのような場面で活用できるのか」について振り返りカードに記入させる。
- ・「できた」、「わかった」につながるような具体物を用いた教材の工夫や、子ども相互の関わり方について研究し、授業中の生徒の様子を観察により授業を評価し次時に生かす。

# 生活や学習の状況

## 1 分析による成果・課題

- ・全体的に読書の習慣が身につけている。
- ・休み時間等短時間でも読書を継続している生徒もいる。
- ・地域行事やボランティアへ等への参加状況から、生徒は地域への関心が高いことが伺える。
- ・ルールやマナー等を守ろうとするなど、集団生活をよりよくしていこうと意識して生活している。いじめはいけないことだという意識も高い。
- ・授業中の「話し合い」や「振り返り」への意識が高い。研修の成果と考えられる。
- ・就寝時刻が不規則な者が多い割には、起床時刻は安定している。睡眠時間が日によって違うことが考えられる。
- ・難しことでも、失敗を恐れなくて挑戦しようとする意識が低い。
- ・自己有用感や自己肯定感を持っている生徒は半数程度である。教師から認められた実感や、



みんなで協力してやり遂げた実感に乏しいことにも起因すると考えられる。

- ・ゲームへの依存度が高い。日に3時間以上行っている生徒が多い。
- ・予習をはじめとする自主学習をする習慣が身につけていない。

## 2 課題に対しての具体的な方策・取り組み

- ・生活習慣に関してはその見直しを、全教員のもとに行う。個々の生活スタイルを把握するシートを作成し、生徒自身が意識できるようにする。また各種たより、面談、家庭訪問等を活用し、保護者との連携を密にする。
- ・授業では、話し合いの活動を多く取り入れ、自分の意見を仲間に伝える機会を確保する。
- ・特別活動において自己の役割を果たせた実感が持てるようにする。こうした取り組みを通して、生徒が自分に自信をもち、よりよい自分でありたいと願う気持ちを醸成していきたい。
- ・ゲームやメディア依存への対策としては、学級活動や個人面談を活用して、家庭での学習習慣の見直しを図るとともに、家庭での約束づくりや保護者による見届けを依頼する。

## 3 具体的な取り組みに対する評価の計画

- ・生活習慣見直しシートを全校に配布する。そこから、帰宅後から就寝・起床までの生活習慣の現状を、生徒自身が把握するとともに、課題と手立てを教師が組織全体で考えられるようにする。担任・学年・教科担当・養護教諭等で共通理解を図り、生活習慣の改善に向けた取り組みに対する助言を行う。
- ・学校評価に関するアンケート調査をもとに、生徒の自己有用感や自己肯定感への意識の様子を把握する。

日	曜日	1 2月の主な行事予定	給食
1	木	<b>第2回県学力調査(3年生) 1・2年後期中間テスト</b>	○
2	金	評議会 15:05	○
3	土	静岡県市町対抗駅伝大会	
4	日	地域防災訓練	
5	月	清掃あり・部活動なし	○
6	火	生徒集会 清掃なし 専門委員会 15:35	○
7	水	校内進路指導委員会	○
8	木		○
9	金	<b>三者面談①(3年生)</b>	○
10	土		
11	日		
12	月	<b>三者面談②(3年生)</b> 清掃・部活動なし 年末の交通安全県民運動(~31)	○
13	火	<b>三者面談③(3年生)</b> 集金日⑨ 学年集会	○
14	水	<b>三者面談④(3年生)</b>	○
15	木	<b>三者面談⑤(3年生)</b>	○
16	金		○
17	土		
18	日		
19	月		○
20	火		○
21	水		○
22	木	冬季休業前授業最終日 部活動なし	<b>弁当</b>
23	金	冬季休業開始 天皇誕生日	
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木	年末年始の休日	
30	金	年末年始の休日	
31	土	年末年始の休日	

本年も学校教育に対して御協力ありがとうございました。今後ともお願いします。